平成30年12月14日発行
島根県高等学校PTA連合会

島根高P連だより

第55号
2018.12.14

発行・編集　島根県高等学校PTA連合会事務局　松江市黒田町538　TEL／0852-22-8602　FAX／0852-22-8735
E-mail：shimakp@orange.ocn.ne.jp　URL：http://www.shimakp.sakura.ne.jp/

1年生フィールドワーク

三刀屋高校

2年生東京研修

三高祭

体育祭

1年生普通科 関西研修

松江南高校

文化祭（2年生演劇）

2年生理数科 つくば・東大研修

体育祭（フィナーレ）

学園祭ＰＴＡバザー

文化祭合唱コンクール

体育祭ラジオ体操

島根中央高校

広島県坂町災害ボランティア参加

目　次

■平成30年度　島根県高等学校ＰＴＡ連合会研修会 …… 2
■第68回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会　佐賀大会 …… 3
■全国高Ｐ連団体表彰校実践報告　横田高校ＰＴＡ …… 4
■ＰＴＡ活動紹介　出雲農林高校ＰＴＡ …… 4
■全国高Ｐ連大会島根大会準備だより …… 5
■日・韓・中ジュニア交流競技会出場　会長激励費贈呈
　松江工業高校ソフトテニス部　真玉大輔さん …… 5
■平成30年度島根県幼こども園・小中・高・特別支援
　ＰＴＡ合同研修会 …… 6
■平成30年度　県教委との意見交換会 …… 6

平成三十年度 島根県高等学校ＰＴＡ連合会研修会

十月二十三日（火）に津和野高校の協力を得て平成三十年度島根県高等学校ＰＴＡ連合会研修会を開催した。当日は県内の各地より三十八名の高Ｐ連会員の参加があった。以下は、研修会の概要である。

最初に視聴覚教室で開会行事を行い、大屋光宏高Ｐ連会長と林幸一津和野高校ＰＴＡ会長より挨拶をいただいた。その後、津和野高校の魅力化コーディネーターの牛木力様よりＴｌＰＬＡＮ（津和野高校の総合学習）とトークフォークダンスの説明を受けた。ＴｌＰＬＡＮは、①「今、ここにあるもの」に気づきそれを活かす、②自分に合ったやり方で社会に関わる、③経験したことを言葉にして表現する、というステップを経て、主体的・対話的で深い学びにつなげることを目的とした津和野高校の総合学習プログラムである。ＴｌＰＬＡＮにはブリコラージュゼミ、トークフォークダンス、課題解決プロジェクト、フィールドワーク、ポートフォリオ（体験の記録）という五つの活動が設定されている。ブリコラージュゼミ（フランス語で日曜大工を意味する「ブリコラージュ」と「ゼミ」との造語）を設定し、「神楽面づくり・竹細工」「津和野の食を知ろう」「竹でご飯を炊こう」など津和野高校独自の二十四のゼミが開講されている。また、「トークフォークダンス」は、京都で生まれ、福岡県福津市の先進的なコミュニティスクール運動の中で形成された対話の手法で、県内で初めてこの手法を取り入れたのが津和野高校である。

魅力化コーディネーターの説明

次に熊谷校長より津和野高校が地域の協力を得ながらキャリア教育の充実を図っていることの説明があった。地域の人々との多様な人間関係の中で生徒たちは自尊感情や社会的自尊感情（自分は社会の中で「できることがある」「役に立つ」「価値がある」と思える感情）をバランス良くはぐくむことが出来る。次期学習指導要領の学力の三要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）を津和野高校では授業に加えて、地域の協力を得ながらＴｌＰＬＡＮで育成したいという話しがあった。

その後、体育館に移動し、ＰＴＡ会員にトークフォークダンスを体験していただいた。五十二名の津和野高校一年生と同数の地域の大人（内三名は交替でＰＴＡ会員）が向かい合って座り、一対一で特定のテーマについて一分間の対話を行い、その後、生徒は隣の席へ移動し、今度は話し相手を変えて新たなテーマについて話す、それを十数回繰り返す形で行われた。テーマは「相手が知らないであろうことを話す」「津和野高校のよいところとは」「時間を忘れてやってしまうこと」「自分が最も大切にしているもの」等で、多くの大人と出会いを通して、コミュニケーション力の向上、自分のやりたいことの整理、必要なときに助けてくれる大人の発見、そして何よりも対話を楽しむことを目的に行われた。高校生は最初、見ず知らずの人と話すことに緊張した様子で、「今の気持ちを表すスタンプ選び」では不安な気持ちを表すスタンプを選んでいたが、終わりのところでは楽しい気持ちのスタンプを選んでおり、高校生自身が大人との会話を楽しんでいるということがよくわかった。

トークフォークダンスの様子

最後に柔剣道場で振り返りの時間を持った。実際に生徒との話しを体験した会員からは「高校生は意外によく考えてしゃべっていた」、「相手の目をきちんと見て話していて嬉しかった」「生徒の成長のために学校と地域が協力して取り組む教育魅力化の一場面を見ることができた」という声があった。学校が地域の協力を得て生徒の成長を促す先進的な取り組みに感心した会員も多かったようである。

振り返りの様子

高Ｐ連研修会としては初めて津和野地区で行ったが、益田地区からの多数の参加者をはじめ、東は安来地区からの参加者もあり、大変有意義なものとなった。ご協力をいただいた津和野高校の林ＰＴＡ会長、熊谷校長先生、魅力化コーディネーター牛木力様をはじめ、関係の皆様に改めて感謝申し上げたい。

第六十八回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会　佐賀大会
「広めよう　高めよう　慈しむ心」～君たちがつくる希望の明日を～

今年の全国大会は八月二十日（月）～二十一日（火）に佐賀市の佐賀県総合体育館大競技場を主会場、佐賀市文化会館大ホール・中ホール、唐津市文化体育館、鳥栖市民文化会館、嬉野市体育館をサブ会場として開催された。「広めよう　高めよう　慈しむ心」～君たちがつくる希望の明日を～を大会テーマに本県からの九十二名を含め全国から約一万人の会員が参加し、様々な協議を繰り広げた。開会式に続き、表彰式が行われ、全国高Ｐ連会長表彰（団体）に横田高等学校ＰＴＡ、ＰＴＡ活動振興功労者表彰（個人）に松尾強氏（元島根県高Ｐ連会長）が表彰された。開会式・表彰式に続き、ラジオＤＪのレモンさん（山本シュウさん）を迎え、「レモンさんのビタミントーク！～慈しみの合い言葉！We are シンセキ！～」と題して講演があった。レモンさんは合い言葉「We are シンセキ！」を紹介し、「あなたの命は、あなただけのものではない。遠慮なく『助けて～！』と叫んでいい」と熱く語った。具体的に明日からできそうな行動や本当のコミュニケーションの形、とらえ方、練習の仕方などについて話があり、会場内の参加者が仲間同士、シンセキ同士のように感じながら講演を聴いた。

午後からは七つの分科会会場でそれぞれ研究発表が行われた。全国高Ｐ連研究発表では、「ＡＩとともに歩む未来」、第一分科会では「学校教育とＰＴＡ～地域の将来を担う人材の育成とＰＴＡ活動～」、第二分科会「進路指導とＰＴＡ～学校と保護者が協働するキャリア教育～」、第三分科会「生徒指導とＰＴＡ～主体的に考え行動する生徒の育成～」、第四分科会「家庭教育とＰＴＡ～情報社会で問い直される家庭教育とＰＴＡ活動～」、特別第一分科会「ＩＣＴ利活用教育～ＩＣＴ利活用教育の可能性～」、特別第二分科会「主権者教育～未来をつくる　私たちの使命～」に分かれ、基調講演やパネルディスカッションが行われた。

翌日の記念講演は五会場に分かれ、佐賀県総合体育館では（株）タニタ代表取締役社長谷田千里氏の「日本を健康にするタニタの挑戦」、佐賀市文化会館では佐賀新聞社の専務取締役・論説委員長の富吉賢太郎氏の「私が出会った感心な人たち」、唐津市文化体育館では、唐津商工会議所会頭の宮島清一氏の「高橋是清と耐恒寮の少年たち―明治初期唐津における英語教育―」、鳥栖市民文化会館では環太平洋大学教授の古賀稔彦氏の「夢の実現～挑戦する事の大切さ～」、嬉野市体育館では俳優の片岡鶴太郎氏の「流れのままに」と題した講演があり、観客を魅了した。

講演後は、前日行われた分科会の報告に続いて、閉会式が行われた。牧田和樹大会会長より閉会の挨拶があり、大会宣言を満場一致で採択した。さらに次期開催地である京都府・京都市高Ｐ連に大会旗が渡り大会が終了した。二年後はいよいよ島根県開催である。

全国単位ＰＴＡ広報誌展示コーナーでは、県内から松江農林高校の「虹」、江津工業高校の「ＰＴＡ」の出展があった。

佐賀県総合体育館大競技場

佐賀市文化会館大ホール

広報誌展示

佐賀大会を終えて、そして島根大会へ

佐賀大会実行委員会
事務局次長　川原田英三

島根県高Ｐ連の皆様、佐賀大会では大変お世話になりました。大会に参加された皆様のご感想は如何でしたか。来年の京都大会に続く、二年後の「ご縁の国しまね」で開催される島根大会の参考になったでしょうか。

大会二年前の佐賀を振り返ってみますと、会場、大会テーマ、ポスター、シンボルマークの決定等、着々と準備は進んでいたところですが、大会運営に携わっていただく会員の皆様方の詳細な役割分担・仕事内容等の決定までは至っていない状況でした。このため、具体的に「誰が何をどのように行うか」がわからず、会員の皆様の不安が高まるばかりでした。しかし、ジグソーパズルのように、一つ一つのパズルが全てつながって、一枚の大きな絵が出来上がるのと同様、時が経つにつれ、一人一人の役割が分かってくると、大会成功のために気持ちが一つになり、楽しい思いと達成感を共有して、大会を終えることができました。

東京オリンピック、パラリンピックの年に開催される島根大会では、「ご縁（えん）づくり」を大会テーマとして、新しい「全国大会開催ガイドライン」で開催されますが、準備状況は如何でしょうか。単Ｐ同士、会員同士の結びつきが深まり、楽しい思いと達成感を共有できる、感動多き大会となりますように、期待しております。佐賀からも多くの会員が参加させていただきますので、よろしくお願いいたします。

第61回中国・四国地区高Ｐ連大会
鳥　取　大　会

と　き　2019年７月12日（金）
ところ　とりぎん文化会館　梨花ホール（鳥取市）
テーマ　ひらけ翼！はばたけ未来！
～巣立ち応援、親力（おやぢから）！！～

※県高Ｐ連ではこの大会参加のための独自の宿舎を確保いたします。ご利用ください。
「大会案内」発送は平成31年４月中旬の予定です。

第69回全国高Ｐ連大会
京　都　大　会

と　き　2019年８月22日（木）～23日（金）
ところ　ロームシアター京都、京都市勧業館みやこめっせ
テーマ　「Kyoから！未来を拓く」
～受け継ぎ、創る新たなストーリー～

※県高Ｐ連では、この大会参加者（県高Ｐ連視察団）のためのツアーを計画いたします。ご利用ください。
「大会案内」発送は平成31年４月中旬の予定です。

全国高Ｐ連団体表彰校実践報告
「横田高校ＰＴＡの取り組み」

島根県立横田高等学校ＰＴＡ会長　福田　秀明

平成三十年度第六十八回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会佐賀大会において、本校ＰＴＡは『全国高Ｐ連会長表彰』（団体の部）で表彰していただきました。誠に光栄であり、うれしく思います。ありがとうございました。

本校ＰＴＡ役員は、会長一名、副会長一名、監事三名、幹事一名、評議員二十五名で構成されています。その他、サポート委員（女性委員十三名）としてサポート活動のお世話をしていただく方もいます。一年間の主な活動は次のとおりです。七月には「環境美化ボランティア」として、グランドや周辺の法面などの草刈りや草取りを二時間程度、生徒達と一緒に行っています。八月末に行われる『稲陵祭』（学園祭）の初日には毎年「ＰＴＡ屋台～父ちゃん母ちゃんの手作り屋台～」を出店します。サポート委員さんをはじめ評議員さんにお手伝いいただき、初日から稲陵祭を盛り上げています。お父さんたちは、暑い中およそ三時間、鉄板の熱さと格闘しながら焼そばづくりを行います。お母さんたちは、唐揚げやかき氷、フランクフルト、ポテト等を皆さんと協力しながら作って販売します。直接生徒と触れ合うことを通じて交流を図っています。今年も大盛況で、ほとんどが完売するほどの売れ行きでした。また、子どもたちの「おいしい！」の声に充実感を感じることができました。稲陵祭一日目はクラス展示・カラーコンテスト（色対抗創作劇）、二日目はＹＯＫＯコーラスなどが行われます。三日目は体育祭です。今年度は、雨の為に順延となり、次の日の日曜日に行なわれました。全校生徒数二百六十一名と少ない人数ですが、自分たちで決めたユニークな競技やリレーなどで大変に盛り上がりました。各色とも一丸となり、最後の最後まであきらめない素晴らしい体育祭を見せてくれました。九月に研修委員会が主催してＰＴＡ会報『まほろば・みをつくし』を発行します。十月には、校内ロードレース大会が行われ、男子は十一三ｋｍ、女子は約九・一ｋｍを走ります。その際、保護者は支援スタッフとして各交差点に立っての誘導・応援、折り返し地点での給水補助などのサポートを行っています。ロードレース終了後には、サポート委員さんがパンとジュースを全員に配って「お疲れさま」と声をかけています。十一月下旬には、ＰＴＡ研修会を予定しています。また二月頃に二回目の『まほろば・みをつくし』の発行を予定しています。

私は今年ＰＴＡ会長に就任し、まだ七カ月ほどです。今回いただきました表彰も歴代のＰＴＡ会長をはじめＰＴＡ役員・会員の皆様のご尽力のおかげです。今回の受賞を励みとしてこれからも子どもたちのためにＰＴＡ活動を行っていきたいと思います。今回の表彰に際しまして、島根県高Ｐ連を始め関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

稲陵祭（学園祭）でのＰＴＡ屋台

環境美化ボランティア清掃活動

校内ロードレース大会での給水サポート

出雲農林高校ＰＴＡ活動

島根県立出雲農林高等学校ＰＴＡ会長　嘉藤　哲也

出雲農林高校は、一九三三年（昭和八年）に「島根県立今市農業学校」として創立、その後、数回の改編・改称し、一九五三年（昭和二八年）に現在の「島根県立出雲農林高等学校」となりました。今年で八五年を迎えました。

出雲農林高校は、時代の変遷とともにその姿を変えつつも、伝統の精神である「耕魂・育命」（自らが大地を耕し、そして自らの心を耕し、やがて自身の未来をも耕す。）の教育目標のもと、農業教育がされ、それにより人類や社会の根幹を支えてきた農業の重要性そしていのちを思う心の教育を日々子どもたちは享受しています。

それは殺伐とした今日の世の中に一番大切なことをしっかりと根付くように学校で学ばせてもらっていると思っております。

さて、出農のＰＴＡ活動は、毎年十一月に行われる「農業祭」への出店がメインの活動となります。この農業祭は生徒の保護者・ご家族はもちろんですが、周辺地域の方々も楽しみにしておられ五千人もの方々に来場していただいています。ＰＴＡとしては、生徒たちが販売する商品と重ならないように、天ぷらときつねのうどんとそばを販売しています。店名も「耕魂うどん・耕魂そばの店」と名付け、約七百食を準備していますが、九時開店で午前中には完売するほどの人気店でもあります。

「農業祭」とは、普段の学習で培ってきたものの集大成として、植物科学科からは花や野菜などの農産物、食品科学科からはジャムや漬物など、動物科学科からはハムやベーコンなどの肉製品、アイスクリーム・ヨーグルトなどの乳製品、環境科学科は土木や造園について学習した内容を、それぞれの学科が展示や販売しております。

最初に述べた「耕魂・育命」の精神で培ってきた学習内容のよく分かる大切な学校行事ですので、ＰＴＡとしても出店には力を入れて、農業祭の一端を担わせてもらっています。

農業祭での PTA の店の様子

全国高Ｐ連大会島根大会準備だより

大会趣旨・テーマ紹介

県高Ｐ連が主管する全国高Ｐ連大会島根大会の開催が一年半後に迫って参りました。県高Ｐ連では、本年度より準備委員会を設置し、本格的な準備に取りかかっています。すでに決定している大会テーマと大会趣旨を紹介します。

大会テーマ

「ご縁（えん）づくり」

～いいご縁をつなごう世界へ、未来の子どもたちへ～

大会趣旨

島根県は、中国山地を背に隠岐諸島浮かぶ日本海を望む、東西約二三〇ｋｍの自然景観に富む県で、国宝「松江城」が町並みを見守る県都松江市は、明治の文豪小泉八雲が愛した落ち着いた街です。出土品が国宝に指定された「加茂岩倉遺跡の銅鐸群」、「斐川町荒神谷遺跡の銅剣群」は、大和朝廷成立以前にこの島根に有力な地方政権があったことを表し、十七世紀には世界の三分の一の銀の産出量を誇った世界文化遺産「石見銀山」の存在などの史実は、古（いにしえ）よりこの地から全国、そして世界へと産業・文化の、いわば人の「縁」をつないでいったことを物語り、県民は今でも「ご縁づくり」を大切にしている人情味豊かな県です。

今、全国の多くの地方自治体は過疎化・少子化に直面しており、島根県でも少子化は公立高等学校の生徒数減少をもたらし、統合や廃校への危機感を募らせています。そんな中、隠岐諸島島前地区の高校が始めた県外からの生徒を迎え入れる「島留学」は、魅力ある教育プログラムの実施により、過疎地にして奇跡的な生徒数増加を実現しました。これを支援する島根県教育委員会は現在、県立高等学校を地域活性化の拠点として地域と連携して魅力化を進める「教育魅力化推進事業」を展開しています。

このように、少子化と地方創生が全国の地方都市では喫緊の課題となっている一方で、高等学校教育そのものにも改革の波が来ています。本年度から始まる「大学入学共通テスト」は高大接続改革の一環として行われ、より一層「思考力・判断力・表現力」が重視されます。新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」は、これからの激変していく社会環境に対応していくために、どのような視点で「生きる力」を高校生に培わせていくのかを問いかけています。その「生きる力」の主軸になるもの、それは子どもたちの高いコミュニケーション力やあふれる情緒であり、人との「ご縁」を広げ豊かな人間関係を築いていく力ではないかと考えます。

「神話の国」出雲地方では旧暦の十月を「神在月」と呼び、全国から八百万の神々が「出雲大社」を中心にこの地に集い、自然・人・ものなどあらゆる「ご縁」を話し合うと言われています。全国の会員がこの縁結びの地島根で出会い、子どもたちの健やかな成長と高校教育を取り巻く諸課題の解決に向けて協議を重ね親交を深めていくことが、新たな「ご縁」を生み、私たち大人の「つなげる力」を一層強め、子どもたちが日本のみならず、世界へと豊かな「ご縁」を紡いでいくプラットフォームになることを願っています。

大会シンボルマークとポスターの原画選考会開催

十一月十二日（月）、松江市内のホテルで大会のシンボルマークとポスター原画の選考会を行いました。県内の高校生からシンボルマーク六十三点、ポスター十五点の応募があり、高校の美術の先生、準備委員会会長・副会長、事務局で構成する選考委員で慎重審査の結果、最優秀賞と優秀賞を次のように決定いたしました。最優秀賞・優秀賞の作品はもとより、応募作品すべてが、大会テーマ・趣旨に沿っており、ふる里島根を捉えた素晴らしいものでありました。最優秀作品を元にして、シンボルマーク、ポスターを制作し、来年二月には発表する予定です。応募された高校生、指導された先生にこの場を借りてお礼を申し上げます。今後とも、会員一人一人が一つになって大会の準備推進をお願いしたいと思います。

選考会のようす　ホテル白鳥

シンボルマーク（敬称略）

最優秀賞
出雲高校　二年　若槻　穂波

優秀賞（受付順）
松江東高校　二年　成瀬陽代里
松江東高校　二年　小村　皐月
横田高校　三年　武井　尚子
大東高校　二年　原田　和奏
松江南高校　一年　白根　千夏

ポスター（敬称略）

最優秀賞
出雲高校　一年　新野　美琴

優秀賞（受付順）
出雲高校　一年　大谷　七海
出雲高校　一年　川上　雛花
三刀屋高校　二年　金坂　沙奈

日・韓・中ジュニア交流競技会出場　会長激励費贈呈

松江工業高校ソフトテニス部　真玉大輔さん

県高Ｐ連では、当連合会に所属する高等学校の生徒やその生徒を指導する学校の指導者がスポーツ競技会やコンテスト・審査会等の世界大会に日本を代表して出場する場合に、その栄誉を称え、健闘を期待して会長激励費を贈呈することにしている。今年度は、韓国の全羅南道麗水市で開催されたソフトテニス競技の日・韓・中ジュニア交流競技会に、日本代表として出場した松江工業高校ソフトテニス部三年真玉大輔さんに七月二七日（金）松江工業高校校長室で塩毛七栄県高Ｐ連副会長が激励費を贈呈した。結果は次のとおり。

第一戦　韓国に三勝二敗で勝利。
一番手に出場し、⑤－２で勝利。

第二戦　全羅南道（韓国の地元チーム）に五勝〇敗で勝利。
五番手に出場し、⑤－２で勝利。

第三戦　中国に五勝０敗で勝利。五番手に出場し、⑤－０で勝利。

真玉選手の三勝の活躍もあり、日本チームは三戦全勝で見事優勝した。真玉選手の今後の活躍に期待する。真玉選手には、後述のように韓国遠征時の手記を書いてもらった。競技会出場だけでなく、若い時代に世界の街を知り、新たな夢を描くことは大切なことである。県高Ｐ連としては、今後もそんな生徒を応援したい。

塩毛七栄高Ｐ連副会長から
激励費を贈呈される真玉選手

「代表選手としての自覚」

島根県立松江工業高等学校　真玉大輔

今回、韓国・全羅南道　麗水市で行われた第二十六回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加しました。国際大会ということで、今までとは環境も違い、苦労した一週間でした。

まず、生活面では言語や文字が違い、会話が困難で苦労しました。しかし、それも国際交流の一つだと思いました。言葉が通じない中でどのようにして相手に言いたいことを伝えるかを考え、ジェスチャーや英語を使って伝えることができました。食事では、日本とは違い辛めの味付けで食の文化も違うのだと改めて感じました。

競技面では、推薦された選手としての心構えとフェアプレーを心掛け、全力で競技に参加しました。日本代表として参加する以上、競技以外の場でも日本人として見られており、一人の言動が日本人全体の言動として思われるので、常に気を配って行動しました。また、試合中は対戦相手に敬意を表し、同じテニス選手として真剣勝負ができました。審判の判定が明らかに違い、不満を覚えるという場面があったとしても、ミスは誰にでもあると考え、試合中の発言や態度で相手を挑発したりする事が無いようフェアプレーを心掛けました。それが出来てこそのスポーツを通じての国際交流だと思いました。

日本代表として一週間を過ごし、日の丸を背負う重圧など代表選手しか体験できない貴重な体験をさせていただき、自分のスキルアップに役立ったと思います。また、帰路の空港で選手団の服を着用しており、たくさんの視線を感じました。そのように代表選手として見られているという自覚を忘れず、これからの生活を送り、再び日本代表として選出されるよう過ごしていきたいと思います。

『子どもと地域の未来に向けて 魅力あるＰＴＡを創る！』

平成三十年度島根県幼こども園・小中・高・特別支援ＰＴＡ合同研修会

十二月八日（土）、島根県立大学浜田キャンパスコンベンションホールを会場に、幼こども園・小中・高・特別支援学校ＰＴＡ連合会の合同研修会が開催された。県内のＰＴＡ会員約百二十三名（高Ｐ連関係四十四名）が参加し、「子どもと地域の未来に向けて魅力あるＰＴＡを創る！」をテーマに研修を行った。講師は島根県教育魅力化特命官の岩本悠氏で、講演や意見交換を通して研修を深めた。

最初に初対面者とペアになり「親からもらったモノ。親にしてもらってよかったと思うこと」について話し合い、アイスブレイクを行った。その後、講師から子どもたちの現状の紹介があり、その中で「島根県は平日に学校以外で一時間以上勉強する生徒の割合が全国で最も低い」、「地域の行事に参加している子どもの割合は全国平均より高いが、地域や社会をよくするために何をすべきかを考える割合は低い」とデータが紹介された。さらに、島根の子どもたちは挨拶や優しさ等の人間性は優れている一方で、自分から一歩踏み出す主体性や協働性はもう少しだという現状分析が紹介された。

次に、急速なグローバル化、ＡＩ化や情報化等、激しく変化する社会の中で「未来を生きる子どもたちにどんな人間に育ってもらいたいか？そのために親・ＰＴＡとしてできることは？」というテーマで四人一組の意見交換を行った。様々な意見が出た後で、講師から「子どもたちが地域・社会の担い手になってくれる人づくりには『in（地域の中で体験する）about（地域について学び・考える）for（地域のために行動・挑戦する）with（地域とともに未来を描く）』教育が大切になってくる」という話があった。最後に「こんな大人になってもらいたいという姿にまず自分がなろうとする大人でありたい」というまとめがなされた。

子どもたちが激しく変化する社会の中で生き抜く力を身につけるためには、学校・家庭・地域が連携・協働し、地域総がかりで子どもの育ちを支えることが重要だということを再確認できた研修会となった。

研修会の様子

平成三十年度 県教委との意見交換会

十一月八日（木）に大屋光宏会長以下三名の役員が県庁会議棟で、県教委の新田英夫県教育長以下八名の職員と「よりよい『しまねの高校教育』のためにＰＴＡにできること」というテーマで意見交換を行った。以下は、その概要である。

[1]「教育の魅力化」と「地域と学校の協働（コミュニティ・スクール）」について

コミュニティ・スクールとは、公立学校に学校運営に関して協議する学校運営協議会を導入した学校のことをいう。県内の高校にはこの制度を取り入れているところはまだないが、「県立高校魅力化ビジョン」では「地域協働スクール」の実現のため、教職員・生徒・保護者・市町村・地域住民等が参加する「高校魅力化コンソーシアム」をすべての高校で構築することとしている。各県立学校や自治体では「教育の魅力化」の推進役としてコーディネーターが配置されているが、育成、研修機会の提供や身分の保証については、県でも研究したい。

[2]夏の学校での暑さ対策について

暑さは「我慢できる」レベルから「危険」レベルになってきている。小・中学校は義務教育であり、国が財政援助することが国会で決まった。高校では公費負担のエアコンと保護者に負担していただいているエアコンが混在している状況である。「小・中学校で設置されているのになぜ高校ではないのか」という保護者の認識もある中、国にも働きかけながら少しづつ進めたい。

[3]二〇二一年度から学年進行で始まる「次期高校学習指導要領」及び二〇二〇年から始まる「大学入学共通テスト」について

次期指導要領は「知識・技能の習得」、「思考力・判断力・表現力の育成」、「学びに向かう力・人間性の涵養」、「主体的・対話的で深い学び」をキーワードとして「生きる力」の育成を目指している。県教委ではリーフレット「明日を担う島根の子どもたちのために」を全教職員に配布し、新学習指導要領の実施に向けて準備をしている。また、教員に対する新学習指導要領の悉皆研修を二〇一九、二〇年度に行う予定である。

大学入学共通テストの国語・数学の記述式問題への対応について、県内の高校ではマーク式の勉強だけをしているのではなく、記述式にも対応できる指導を行っているので心配はしていない。ただ、問題文が長く、速く正確に読む読解力の養成が必要である。英語の民間試験導入について、今年の五月の県内の調査では、受験予定の一年生は三年次に英検やGTECを受ける予定の学校が多い。まだまだ未確定の部分が多く、今後注意深く見守っていく。

[4]教員の多忙化について

土日も活動したり、経験の乏しい部活動を担当したりで多忙感や心理的な負担も高まっている。県教委では「部活動の在り方検討会」を設置し、部活動の改善の方向性や望ましい指導の在り方等の検討を行っており、今年度中には方針を示したい。今春に行った一ヶ月あたりの超過勤務時間の実態調査では七十五・八時間であった。「健康第一」は大切なことであるので、少しずつではあるが改善し、教育の魅力化と働き方改革をセットで行い、「教育魅力県」を作りたい。

[5]松江市内普通高校の校区解消は、いつされるのか

二〇二一年春の入試から校区は解消する。これにより今まで以上に松江市内普通高校三校が「育てたい生徒像」や特色を明確にし、中学生が主体的に進路選択できるように「魅力化」を進めることが期待される。

教育の魅力化の推進や地元を支える人づくりには、学校、保護者、地域、行政の協力が欠かせない。ベクトルを同じに関係者が協力して行くことが大切だと感じた意見交換会であった。

意見交換会の様子

「西日本豪雨災害」義援金報告

西日本豪雨災害に対する義援金は、十一月末現在で五十万八千三百八十二円集まっています。ご協力に感謝申し上げます。（締切は平成三十一年一月八日です。）

事務局便り

十一月十・十一日に三刀屋高校掛合分校で「地域交流コラボ文化祭　掛高祭」が開催されました。この文化祭は掛合分校が保護者の協力を得ながら地元の掛合町文化協会と協働で開催するもので、高校生の発表だけでなく地元の保育所の太鼓や中学校の吹奏楽の発表、地域の人の合唱や絵画・書道などの作品展示もあります。その中で一～三年生の研究発表を見ました。三年生の研究発表は「秘密のチョウミンＳＨＯＷ」と題して、雲南市の六つの町と隣の奥出雲町についてでした。例えば吉田町チームは「吉田　お見合いTour♡」、加茂町は「銅鐸の町　加茂町」、木次町は「木次　ヤマタノオロチ伝説」などで、夏休みを利用し各地区を実際に歩き、地元の人にインタビューしながら地元の魅力や課題を見つけ、高校生らしい新しい企画を発表していました。掛合町チームは「掛合の伝説を小学生に…」と題して、地元に伝わる「黄金鳥と多根太衛門」という力士の伝説をもとに紙芝居を作り、実際に小学生に読み聞かせするもので、小学生が目を輝かせ聞いている動画が流れました。高校生が学校の中だけでなく地域に出かけ、地域のひと・もの・ことを活用しながら学び、学年が進行するにつれて発表の内容やプレゼンテーション力も高くなっており、生徒の成長が伺え、とても嬉しく思いました。

本年もいろいろとお世話になりありがとうございました。よいお年をお迎えください。